

## 令和3年度 社会福祉法人陽和福祉会事業計画

### 法人本部

#### \* 基本目標について

本年度は開設からどんぐりの森が8年目、どんぐりの家が4年目を迎えます。基本理念の「住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、友愛と福祉の精神をもって、多様な福祉サービスを提供し、地域福祉の推進につとめます」の実践に努め、地域の高齢者福祉の向上に一層努めていく。また、昨年度から感染拡大が懸念される新型コロナウイルスの防止対策を徹底し、安全で安心して暮らせる「サービス」の提供に努める。

#### \* 人材の確保と資質向上について

入居者・利用者の皆さんに安定して質の高いサービスを提供できるよう、ハローワーク、ホームページなどを通じて事業所の雰囲気を変えながら求人募集を行うなど採用活動に力を入れる。各事業所とも人員配置の基準を満たしているものの退職する職員もいるため欠員が生じないように人材の確保に努める。小規模ながら特養をはじめ7つの事業所を有しているが感染対策のため、職員の交流や集合研修も行えていないのが現状。令和3年度においてはオンライン研修への積極的な参加を推奨し、職員の資質向上に努める。また、適正な人事考課により評価に応じた昇給などを行い、職員のモチベーションを高めていく。

#### \* 安定した運営について

令和3年度は介護報酬の改定が行われる。各種加算の取得、食事等の保険外サービス費の見直しを各事業所において行い、収入の増加に努める。また、水道光熱費を始めとする経常経費の見直しや定期的な経費削減を図り安定した運営に努める。なお、近年の大規模災害に対応するため業務継続計画を策定し、非常時にも対応できるよう必要備品等の整備に努めていく。

#### \* 運営推進会議の開催について

特養、グループホーム、小規模多機能の3事業所合同の会議を2か月に1回のペースで開催。デイサービスでは年に1回開催している。スライドを使つての施設の取り組み等、事業所の運営、日々の生活ができるだけわかりやすく皆さんに伝えられるようにしていく。昨年度は感染対策のため書面での開催もあったが新年度においては感染状況を注視し、防止対策にも配慮し運営推進会議が開催できるようにしていく。

#### \* オレンジプラスカフェ（認知症カフェ）などの開催について（喫茶どんぐりにて）

現在は感染対策のため入居者のみの参加で月2回の開催ペースを維持している。毎回職員が工夫を凝らしてお菓子を作り皆さんに提供している。市中の感染状況を見ながら、十分な感染対策を行い、地域の方も参加できるよう工夫していく。また、隣接の障害者支援施設はるひ荘の入所者による日曜のコーヒーショップも同様、新型コロナウイルス感染対策をしっかりと行ったうえで再開する。

\* 情報発信について

季刊誌「どんぐり広場」の内容を充実するとともに、町内の回覧により情報発信に努めていく。また、ホームページを活用し、法人の情報や施設内の雰囲気積極的に発信するように努める。各ユニット単位のささやかな行事も発信できるようにする。

\* 地域との関わりについて

昨年度は、ハナモモ育樹祭、夏まつり、地域防災訓練等がことごとく中止。ご家族の面会も満足に行えないなど、地域の皆さんとの交流が全くと言っていいほどありませんでした。今期は今の状況にあった形で地域の皆さんとの交流の新しい形を模索していく。

\* 研修

年に2回の「事故防止」「感染対策」、年に1回の「身体拘束」の研修を必須とした年間研修計画を作成し、計画的で質の高い研修を実施する。新入職員向けの研修など職員の習熟度に合わせた個人別の研修や外部研修にも積極的に参加させ職員の資質向上に努める。

介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を職員に促し講習会や研修の受講支援を行う。

看護職を中心に医療に関する研修の充実を図り、医療処置を必要とする入居者に対し安全適切に対応できるよう努める。

認知症高齢者に対するケア・接遇に関する研修に積極的に参加、施設内でも伝達講習を行い全職員が認知症高齢者に充実したケアが行えるよう努めていく。

利用者の送迎等により職員が車の運転を行うことが多いため、運転講習や交通安全講習を定期的に行い安全運転の徹底を図り職員の交通事故防止に努める。

訪問サービスの強化を推進するため接遇マナーの研修を定期的に行い、職員全員が利用者宅において気持ち良い対応が出来るように努める。

様々なオンライン研修が行われるようになってきたので積極的に参加するよう促していく。

## 高齢者福祉施設どんぐりの森

### 1 基本方針・目標

#### (1) 地域密着型特別養護老人ホーム（入居定員29名）

##### \* 事業の内容について

入居者に対して施設サービス計画に基づき、明るく家庭的な環境のもと、食事、入浴、排せつ等の日常生活の援助及び日常生活の中で心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、入居者がその有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるよう支援していく。開設から7年を経過し、入居者は要介護度4または5となった。春日井リハビリテーション病院との連携により皆さんが安心して少しでも長い間安心して入居していただけるよう努めていく。

##### \* 稼働率について

居室は常に満床の状態になるよう努めている。入居の待機者について、空室ができれば入居がスムーズにいくよう病院等、関係機関との連携を強化していく。また、特別養護老人ホームの入居指針にあるように入居の必要度の高い方を優先的に入居させていく。

##### \* ユニットケアの実践

24時間シートの質を高め、ユニット型の小規模特養の特徴を活かし入居者の皆様が自宅で過ごしているような雰囲気での暮らしの継続に努めていく。感染症の終息を待って植物園へのお出かけや中庭の散策など、天気の良い日には屋外でも楽しんでいただくようにする。

#### (2) 認知症高齢者グループホーム（入居定員18名）

##### \* 事業の内容について

認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対して施設サービス計画に基づき、明るく家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の援助及び心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を入居者の有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるよう支援していく。

##### \* 稼働率について

常に18名の満床状態を維持できるよう、小規模多機能型居宅介護事業所などと連携し、空きができれば順次案内したり、歩行が不安定な方など要介護度が進んだ方には計画的に特養へ移るなど、適時適切に本人の状態にあった環境に移っていただくようにしていく。また、関係医療機関等との連携を強化し、入居者が長くグループホームで過ごしていただけるようにする。

##### \* グループホームの特性を活かしたケアについて

炊事・洗濯・お掃除・布団干し等、日常の活動を入居者の皆さんと一緒に機能の維持向上に努める。歩いて買物ができる場所がないので、入居者の皆さんと共に車を利用し買い物等に行くようにする。近くの植物園への散策や天気の良い日には屋外のレクリエーションや園芸活動へ参加して頂く。

#### (3) 小規模多機能型居宅介護事業所（登録定員25名、通所定員15名、宿泊定員6名）

##### \* 事業の内容について

利用者がその自宅において、可能な限り自立した生活を過ごすことができるよう、居宅サービス

計画に基づき通い、訪問、宿泊の各サービス形態で必要な日常生活上の援助を行うことにより、利用者の孤独感の解消及び心身機能の維持並びに利用者の家族の身体及び精神的負担の軽減を図るものとする。地域の高齢者の皆さんが可能な限り自宅での暮らしが継続できるよう、本人だけでなく介護者も併せて支援する。また、ケアマネジメントに力を入れ、地域活動の把握にも努め、利用者の幅広いニーズに応えられるよう対応していく。市内に7か所ある小規模多機能型居宅介護事業所の中でも、「どんぐりの森」ならではの特色ある事業運営に努めていく。

\* 稼働率について

現在の利用者は20名、登録定員25名に近づけるよう努力していく。宿泊もできるため居宅サービスにしては利用者の介護度が重くなっている。ひとり暮らし高齢者等の在宅での生活を支援していくため、訪問、通いの利用者を募り、サービス体制を整え積極的に利用者の拡大を図っていく。

## 2 共通事項

### (1) 行事

昨年度は新型コロナウイルス感染症の予防対策のためご家族を招いての行事はできなかったが、今年度は感染症の予防対策を施したうえで行事を実施していきたい。夏には夏まつり、年末には餅つきと年2回の全体行事を実施するとともに、各ユニットにおいてはユニット単位で「ユニット調理」「誕生会」等の行事を随時実施し入居者の皆様に有意義な時間を過ごしていただく。屋内外のレクリエーション、地域での行事への参加、飲食店への外出等入居者の趣味嗜好に合わせた活動を行っていく。

小規模多機能型居宅介護事業所においては、特有の柔軟な対応を利用し、近隣の公園への外出、喫茶店での昼食、屋外でのバーベキューなどを行い、楽しく充実した日常生活を送っていただくようにする。

### (2) ボランティアの参加

例年は月に3～4回、いろんな団体の方が定期的に来ていただいていたが昨年度においてはほとんどのボランティア活動をお断りするという非常に残念な一年となった。感染拡大の終息を待って以前のように各種ボランティアが再開できるよう努力していく。また、ユニットにおいて一人ひとりの嗜好に合わせたボランティア（絵葉書・傾聴等）も充実させ、入居者の生活の質の向上が図れるよう協力をお願いしていく。

### (3) ご家族への対応

\* ご家族への対応について

昨年度はほとんど面会禁止であったが、窓越しの面会、オンライン面会、端末を利用した画像の発信など入居者のご様子をご家族に伝える手段を工夫してきた。今年度は状況を見ながら緩和していきたい。

## サービス付き高齢者向け住宅どんぐりの家

### 1 基本方針・目標

#### (1) サービス付き高齢者向け住宅（入居定員33名）

\* 事業の内容について

サービス付き高齢者向け住宅を中心とする愛知県の地域包括ケア団地モデルの一環として、平成30年5月に開設。食事の提供と安否確認・生活相談サービスを行うことにより、快適で心身ともに充実、安定した生活ができるよう支援していく。また、要支援・要介護者の方には訪問介護、訪問看護、通所介護等のサービスの活用を促し安心した生活が送れるようにする。

\* 稼働率について

居室は常に満室の状態に努めていく。開設より3年が経過し、高齢・高介護度の方の入院、退居が増え、新型コロナウイルスの影響もあり、デイサービス利用にも影響がありました。今後は年齢・介護度などのバランスにも配慮しサービスの向上に努めていく。

\* 地域交流ホールの活用

前年度は地域ふれあい運動教室、ボランティア団体による活動ともコロナ禍で中止としました。今後は周辺の感染状況の注視と感染防止対策を徹底し再開をめざしていく。

\* 職員の確保と資質向上

サ高住と訪問介護事業所は一体的にとらえて安定的な運営ができるよう人員確保に努めるとともに、研修等を通じ職員の資質向上に努める。

\* サービスの向上

開設より3年が経過し食事に対する不満の声があるため新年度から事業者を変更しメニュー・味付けを刷新し、喜ばれる食事の提供に努めていく。

\* 環境整備

外出自粛の状況下でも敷地内の散歩で気分転換が図れるよう、花壇や雑木林の整備を進める。また、花壇整備や菜園活動にも活動参加を促していく。

#### (2) 訪問介護事業所

\* 事業の内容について

在宅に訪問し生活援助として洗濯・掃除・布団干し等、生活に係る援助を行う。また、身体介護としてトイレへの誘導・おむつ交換等の排泄介助。お風呂での洗身・洗髪・入浴などの入浴介助。他に食事介助・車椅子への移乗・移動介助・起床介助・就寝介助等身体に係る介助を行う。定期的にモニタリングやカンファレンスを行い、どのような支援・援助が必要かサービス計画を作成し、適切なサービス提供に努める。また、日々連絡帳にて報告や連絡を密に行うなど職員間の情報共有を図る。

\* 稼働率について

サービス付き高齢者住宅入居者33名のうち22名が利用している。今後の利用増に対応していく。

### (3) 通所介護事業所（通所定員15名）

＊ 事業の内容について

利用者の有する能力に応じ、可能な限り居宅において自立した日常生活を営むことができるよう、生活機能の維持・向上を目的とし、日常生活上の支援や機能訓練を提供する。

＊ 稼働率について

現在の利用者は34名、うち12名がサ高住の入居者、残り22名が地域の利用者である。2月末時点の稼働率は70%。コロナ禍による利用控えの影響もあるが、稼働率の向上に努めていく。

＊ 職員の確保

質の高いサービスが提供出来るよう、利用者数に対して適正な職員数の確保に努める。

### (4) 訪問看護事業所

＊ 事業内容

事業所開設から5年目を迎え、地域での更なる認知度向上に努め、事業所スローガン『住み慣れた地域で安心してその人らしい在宅療養生活に寄り添った看護を提供します』を掲げ在宅生活を支援していく。

＊ 稼働率について

平成28年10月に開設以来、順調に利用者数を増やしてきたが、直近では入院の増加やコロナ禍での利用控え等によりやや減少傾向にある。

コロナ禍での病院の面会制限を理由に在宅サービスを選択される利用者もいるので、今後も感染予防、職員のスキルアップ、他事業所との連携を図りながら利用者の拡大に努める。

## 2 共通事項

### (1) 行事

昨年度はコロナ禍で夏まつりなどの行事が中止となりましたが、今年度はまたどんぐりの森と共同で夏まつりを実施したい。その他例年のクリスマス会や餅つきなどを計画する。また、新型コロナウイルスの状況を見極めながら、地域交流ホールでのボランティア活動の受入れ、介護予防運動を再開していく。また、グランドゴルフ体験など余暇活動を支援していく。